

中央大学 会計人会 会報

発行所 中央大学会計人会

〒116-0003 東京都荒川区南千住5-25-14

税理士法人 荻野会計事務所内

<http://chudai-kaikeijin.jp>

発行人 会長 荻野 弘康



会長 荻野 弘康

はじめに

6月21日(木)第57回定期総会が役員、会員各位のご支援、ご協力にて無事終了いたしました。

総会の議案等については、本誌にて石亀副会長よりご報告させていただきました。

ご来賓には中央大学より福原学長、経理研究所より上野所長、公認会計士白門会より熊坂会長はじめ友好会計人からも多数のご参加、貴重なご挨拶を賜り、意義あり、楽しい懇親会とさせていただきました。

ご来席皆様様に心より御礼申し上げます。

***士業の職責使命は不変、不動である

会計業務を基盤とする士業は、明治維新より、政治、経済、国民経済(士農工商)が進化、改革が始まり計理士法(昭和2年—1927)、税務代理士法(昭和17年—1942)、税理士法(昭和26年—1951)、公認会計士法(昭和23年—1948)と歴史的経緯があり、今日に至っているのである。中央大学では、計理士、税理士、公認会計士の三士業が協議して昭和36年—1961に中央大学会計人

会を立ち上げたのである。

いずれも会計業務を基盤とする士業であり、(本会の会員は中央大学学員であって、計理士—公認会計士—会計士補—税理士) 第5条とし、「本会は、会員相互の親睦と職業会計人としての資質の向上と学術の研鑽を図ると共に、母校の振興に寄与することを目的とする。」(第3条)等の会則と制定し、大学学員会の支部として設立され58年目を迎えたのである。

士業それぞれの職責使命は、それぞれの士業法に明示されているが、基盤ともいえる会計業務、会計助言AI等の進化に対する対応は共通の課題でもある。

** AIの進化は業務での有効活用が求められる

AIの進化は、メデイヤで数多く取り上げられ、減じる士業とか各種の労務への影響が伝えられているが、あまり取り乱さず、業務関連の周辺ツールの進化として冷静に情報を収集し、対応を検討していかなければならないのである。

(AIは優秀な部下の一人) と考える—一人間の未来AIの未来—山中伸弥(ノーベル賞)、羽生善治(国民栄誉賞)—両者の対談 講談社より

会計業務の初期は、ソロバンパチパチしながら、入、出金伝票、振替伝票から一枚ずつ転記し、総勘定元帳を作成していた頃を懐かしく思いますね。

税務関係書類等を含めて、周辺ツールの進化を士業の業務に取り入れてきたのです。

** 税法データベース (tains) の稼働 昭和59—12—1 (1984)

税理士業務は、納税者の代理人として

各種の関連業務を行っているが、国民の納税義務の基本は「国民は法律の定めるところにより納税の義務を負う。」—憲法第30条の—であり、憲法の理念によって職責、使命を果たしていかなければならないのである。

税法は、本法、政令、省令があり、加えて解釈通達がありこれらをベースに税務行政が行われているが、通達も概ね適正な解釈通達であるが案件によっては不適切な解釈通達もあり、これらについては税理士、弁護士が連携し、税務訴訟を提起し、納税者の判決を勝ち取っている。

タイムズは34年ほど前にデータベースの管理ソフトを立ち上げ膨大な税務情報(判例、裁決等—相続税でスタート)—東京税理士会、日本税理士会連合会、日本税務研究センター—のデータベース化に成功したのである。

福原学長からも、税務訴訟における案件で弁護士、税理士が提携して納税者のための判決を得ることが出来た旨のお話をいただきました。

情報の収集、検索のソフト、検索データのダウンロードシステムはAIの進化の先駆けのシステムであったのである。

*** 情報一覧 (2018-0709現在)

地裁 6687	所得税から各税
高裁 3790	同
最高裁 2087	同
合計(12564)	全部取り消し 559(4.4%)
	一部取り消し 784(6.4%)
裁決 4696	同 全部取り消し 601(12.8%)
	一部取り消し1274(27.1%)

国税不服審判所は、税理士が納税者の代理人として納税者の権利擁護について職責を果たすと共に、地裁、高裁につい

ては弁護士と共に出廷し納税者の権利擁護に鋭意努めているのである。

** 「人間万事塞翁馬」古代中国の故事

山中教授の研究室の一番目立つところに「人間万事塞翁馬」と大書された額が掲げられているそうです。

監査関連では、東芝の巨額粉飾決算(チャレンジ、チャレンジ) 税務関連でもノータックス国利用の大口脱税など多々ありますが、士業界はこれらに挫けること無く、再発防止に努めていかなければならない。

ればならない。

ピンチはチャンスでもあるのですから。

** むすび

ツールの進化は、善用もあるが悪用もある。

大企業の品質管理もホルクスワーゲンに始まり、我が国日産、神戸製鋼などと止まりませんね。

専門家集団として管理監督し、誠心誠意よりよき業務を行い、国民の負託に応えていかなければならないのです。

平成29年度 定時総会報告

(第57回)

副会長 石亀 邦俊

去る平成30年6月21日(木)中央大学駿河台記念館にて平成29年度(第57回)定時総会が開催されました。

定期総会の議案の審議内容は下記に記載の通りであります。

恒例によって定時総会の前に理事会が開催され、そのあとに、第1部として平成29年度(第57回)定期総会が開催され、第2部では、平川茂 当会会員による「平成30年度税制改正の実務上の留意点」と題しての研修会を行いました。

そして第3部の定時総会後の懇親会には、ご来賓として中央大学より福原紀彦学長、中央大学経理研究所所長の上野清貴様をはじめ大学関係者、友好大学会計人会からは多くの役員の方々の参加を賜り、盛大に行われました。

会員各位の温かいご支援に感謝を申し上げます。

議 題

I. 平成29年度事業報告

平成29年1月1日から平成29年12月31日まで

1 会議等

(1) 平成28年度 定時総会

平成29年6月21日

中央大学駿河台記念館

第一部 定期総会

事業報告、収支報告、事業計画、収支予算

第二部 研修会

テーマ：『平成29年度 税制改正の実務対応とその改正事項の徹底解説』

講 師：当会顧問・税理士 平川忠雄先生

第三部 懇親会

(2) 正副会長会・理事会

中央大学駿河台記念館

平成29年2月23日

平成29年6月21日

平成29年7月26日

平成29年9月27日

平成29年11月29日

2 広報活動

①中央大学会計人会会報第22号発行
(平成29年7月20日)

平成26年7月14日 総会
平成29年7月15日 税理士三田会総会
日本大学税理士桜門会総会

②中央大学会計人会会報第23号発行
(平成29年11月20日)

平成29年7月30日 駒澤大学会計人会

3 組織活動

六大学会計人会ゴルフコンペ
平成29年10月4日

総会
平成29年9月15日 法政大学会計人会
総会

多摩カントリークラブ

平成29年12月8日 駿台会計人倶楽部
忘年会

中央大学会計人会 団体優勝

4 大学・大学学員会関係

平成29年12月13日 中央大学公認会計士
試験合格者祝賀会

①大学事業の支援

平成29年10月22日 第26回中央大学
ホームカミング
デーに団体参加

②第21回全国大学会計人会サミット
平成29年11月4日 成蹊大学会計人会
主催

平成29年12月17日 「炎の塔」開設15周
年記念フォーラム・
祝賀会

③観桜会(合同研修会)上野精養軒
平成29年4月1日 駿台会計人会倶楽
部と共催

②大学評議会出席

平成29年5月12日 全国支部長会議
平成29年5月13日 定時評議会
平成29年5月24日 法曹会常任理事会
平成29年7月29日 商議員会

④その他

平成29年10月8日 全国高等学校珠算
大会(白珠会)後
援団体に参加

5 他団体関係

①友好会計人会総会等出席

平成29年6月23日 日本大学桜門会計
人総会

平成29年6月30日 専修大学会計人会
総会

平成29年7月4日 青学会計人クラブ
総会

平成29年7月5日 税理士稲門会総会

平成29年7月5日 明治大学公認会計
士会総会

平成29年7月6日 神奈川大学会計人
宮陵会総会

平成29年7月7日 公認会計士白門会

II. 平成29年度収支報告書並びに財産目録

1. 平成29年度 収支報告書(別紙掲載)
2. 貸借対照表(別紙掲載)
3. 財産目録(別紙掲載)

III. 平成30年度 事業計画(案)

平成30年1月1日から平成30年12月31日まで

1 会議等

定時総会開催(年1回)

中央大学駿河台記念館

理事会開催(年3~4回) 同

正副会長会(年3~4回) 同

常任理事会(年3~4回) 同

2 会員活動

- ①日本税理士会連合会機関紙「税理士界」広告（予定）
 ②東京税理士会機関紙「東京税理士界」広告（予定）
 ③中央大学学会「学員時報」広告（予定）
 ④CPA会員名簿による直接入会のすすめ
 ⑤新会員名簿整理及び管理
 ⑥中央大学会計人会 会報発行（年2回予定）
 ⑦中大OB・財務省・国税庁OBによる研修会開催
 ⑧ホームページ運用・管理

3 大学・大学委員会

- ①幹事会その他の出席
 ②評議会出席
 ③大学委員会他支部出席
 ④第27回ホームカミングデーに団体参加（多摩キャンパス）

4 他団体関係

- ①他大学会計人会出席
 ②全国大学会計人会サミット出席（駿台会計人倶楽部主催）

IV. 平成30年度 収支予算書（案）

（別紙掲載）

平成29年度 収支報告書

平成29年1月1日から平成29年12月31日まで

中央大学会計人会 【単位：円】

収入の部			
科目	平成29年度予算額	平成29年度決算額	差 額
通常会費収入	2,600,000	1,510,000	1,090,000
支援金収入	630,000	1,038,000	-408,000
親睦会収入	200,000	230,000	-30,000
雑収入	500,000	474,000	26,000
利息収入	30,000	125	29,875

当年度収入合計	3,960,000	3,251,125	707,875
前期繰越収支差額	18,035,122	18,035,122	
収入合計	21,995,122	21,287,247	707,875

支出の部			
科目	平成29年度予算額	平成29年度決算額	差 額
母校支援事業 (内 経理研究所支援)	630,000 (300,000)	485,000 (300,000)	145,000
会場費	650,000	653,822	-3,822
通信費	100,000	42,480	57,520
事務局費	120,000	120,000	0
消耗品費	50,000	5,659	44,341
会報費	1,100,000	1,063,027	36,973
渉外費	600,000	765,526	-165,526
研修会費	200,000	258,422	-58,422
広告費	100,000	77,800	22,200
ホームページ費	100,000	94,089	5,911
雑 費	100,000	15,705	84,295
当年度支出合計	3,750,000	3,581,530	168,470
次期繰越収支差額	18,245,122	17,705,717	539,405
合 計	21,995,122	21,287,247	707,875

収入の部内訳（平成29年1月1日～平成29年12月31日）

【単位：円】

会費収入	1,510,000	
支援金収入	1,038,000	
合計	2,548,000	
親睦会収入	定時総会等	230,000
合計	230,000	
雑収入	定時総会	404,000
中央大学	70,000	
合計	474,000	
受取利息収入	三井住友銀行	20
みずほ銀行	87	
三菱東京UFJ	0	
郵貯銀行	18	
郵便振替預金	0	
合計	125	
収入の部合計	3,252,125	

貸借対照表

平成29年12月31日現在

中央大学会計人会 【単位：円】

科目	当年度	前年度	減 額
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	0	0	0
普通預金	18,093,531	18,627,766	-174,235
未収入金	80,000	70,000	10,000
資産の部合計	18,173,531	18,337,766	-164,235
II 資産の部			
1. 流動負債			
未払金	467,814	302,644	165,170
III 正味財産の部			
正味財産	17,705,717	18,035,122	-329,405
負債・正味財産合計	18,173,531	18,337,766	-164,235

財産目録

平成29年12月31日現在

中央大学会計人会 【単位：円】

科目(内訳)	金額
I 資産の部	
1 現金	0
2 銀行預金等	
①三井住友銀行 上野支店 (普) No.7579585	2,344,823
②みずほ銀行 上野支店 (普) No.4512448	10,505,465
③三菱東京UFJ 中野支店 (普) No.4551431	84,312
④郵貯銀行 No.10020-72193211	3,627,285
⑤郵便振替預金 No.150-6-28490	1,531,646
3 未収入金	80,000
資産の部合計	18,173,531
II 負債の部(未払金)	467,814
差引正味財産有高	17,705,717

会計監査報告書

平成29年度決算につき、平成29年度の事業報告書並びに収支報告書、財産目録及び関係帳簿類等を監査したところ、適法に処理されておりますのでご報告申し上げます。

平成30年4月10日

監事 佐藤 博司 (印)
監事 小森 輝於 (印)

平成30年度 収支予算書(案)

平成30年1月1日から平成30年12月31日まで

中央大学会計人会 【単位：円】

収入の部			
科目	平成30年度予算額	平成29年度決算額	差 額
通常会費収入	2,600,000	2,600,000	0
支援金収入	630,000	630,000	0
親睦会収入	200,000	200,000	0
雑収入	500,000	500,000	0
利息収入	30,000	30,000	0
当年度収入合計	3,933,000	3,960,000	0
前期繰越収支差額	17,705,717	18,035,122	
収入合計	21,638,717	21,995,122	

支出の部			
科目	平成30年度予算額	平成29年度決算額	差 額
母校支援事業 (内 経理研究所支援)	630,000 (300,000)	630,000 (300,000)	0
会場費	650,000	650,000	0
通信費	100,000	100,000	0
事務局費	120,000	120,000	0
消耗品費	50,000	5,000	0
会報費	1,100,000	1,100,000	0
渉外費	600,000	600,000	0
研修会費	200,000	200,000	0
広告費	100,000	100,000	0
ホームページ費	100,000	100,000	0
雑費	100,000	100,000	0
当年度支出合計	3,750,000	3,750,000	0
次期繰越収支差額	17,888,717	18,245,122	
合計	21,638,717	21,995,122	